

# 快適なお住まいのお役立ち

【くらしに役立つ情報です】 2018年4月191号

## 南海トラフ想定＊水・食料品・一週間分以上必要

平成26年1月24日：南海トラフ大地震について有識者で作る大阪府の検討部会の公表された内容です。 (2014年2月141号：2015年2月153号) 加筆修正

① 地震当日に、断水する世帯の人口が832万人に達する。府民全体に占める割合は、94%に上がる、国が想定した倍近くになります。避難者も192万人で国想定より40万人近く増えると発表されております。飲料水の不足は、淀川水系を利用する自治体では、深刻な問題になります。1ヶ月経過した後も水道管の破断等もあり126万人に影響が続きます。停電は、被災直後で、全所帯の(55%)234万軒・ガスの供給停止も(34%)115万軒電気は、比較的早く復旧しますが、ガスは、1ヶ月後も8万2980軒に供給できないと公表されております。避難者の増大は、府が想定する津波浸水地域が、国が想定の上の3倍以上の1万1000㌔に及びます。(梅田などの都心部を含めた数字)断水が長引くと被害の少なかった親戚等への避難が増え1ヶ月後のピークには、192万人に達するといわれております。地震当日は、府内外の帰宅困難者が146万人に達しJR大阪駅周辺では18万人が帰宅困難者になると云われております。経済損失は国の試算では、建物損壊で24兆円としておりましたが、今回の公表では28兆8,000億円の損失を見込んでおります。他に沿岸部では、4055㌔に数日間水が溜まる。国道1号、2号など1883ヶ所：鉄道・新幹線1474ヶ所で損傷：医療機関では、最大7万人の患者を診察できない状態がしばらく続きます。26年1月24日公表された、食料：水の備蓄は、国の基準では3日分でしたが、最低一週間以上の備蓄が必要と云われております。行政も「公助」の備蓄の修正を図り、個人的にも住民が自ら命を守るため「自助」の重要性を理解して、消防庁のマニュアル「3日間程度」から一週間以上の備蓄の体制を整えておきたいと思っております。特に水の不足は、直接命に関わります。水の備蓄最低一人一日3㍓が必要で、食品は、そのまま食べられるか、少し手「熱」を加えたらすぐに食べられるもの、レトルトパックのご飯、インスタントラーメン、乾パン・餅・缶詰・等非常持ち出し品の点検：補充をしましょう。

- 災害時一次持ち出し品・現金・貯金通帳・印鑑・証書類・身分証明書「健康保険書・運転免許所」
- 救急医療品・医院からの常備薬・胃腸薬(避難所では必要かも?)絆創膏・包帯・外科用薬品等
- 携帯ラジオ(FM・AM)携帯電話・懐中電灯1人1灯・鎮痛薬・目薬・ハサミ・カッターナイフ
- 着替え用品・下着・上着・靴下・靴(底のしっかりした靴を履いて避難)

赤ちゃん・介護中のお年寄りには十分な気使いを

- 簡易トイレは、必需品です忘れずに用意しましょう  
(排泄を我慢すると体調を崩す時があります、忘れずに簡易トイレの用意を優先してください。)

(有)中尾塗装店は、これからもみなさまのお役に立つ情報を提供させていただきます。

**(有)中尾塗装店** **検索**

日常不便に感じたことは、ご遠慮なくお電話ください。速やかにお伺いいたします。

599-8238 堺市中区土師町5丁24番1号

TEL072-236-8993 : FAX072-234-7034 フリーダイヤル 0120-368-993

(お住まいの耐震診断・耐震補強工事のご相談も一級建築士事務所と提携して承っております。)

熱を消す塗料「タフコート」熱交換塗料の施工及び資料の請求は経験と実績の有限会社中尾塗装店にご相談下さい